

事務事業評価表（公共施設）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年6月30日

1 事業名	生涯学習館管理事業			コード	103207	
2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課（生涯学習活動センター）	作成者	三村田 卓
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	生涯学習の推進	施策	社会教育の充実	
		予算科目	報酬給与費／公民館総務費／車両管理費／生涯学習館管理事業費／生涯学習館運営事業費	業務委託	一部委託	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市イルフプラザ条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的

*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

施設の概要 (簡潔に)	全ての年齢層にわたる市民等が気楽に集い、ふれあい、学びあい、生涯をとおして自らを高めていく場であり、多様な市民等の学習活動を支援していく。
目的	対象者 市民
	意図 生涯を通じて学びあい、豊かな心を育てる。

5 施設の管理運営状況

指定管理者	25年度指定管理料	円
施設における 通常業務	施設の維持管理、施設の使用許可、使用料等の徴収 各種学級・講座・講演会等の企画実施、ロビー展事業	
事業の実施内容	(25年度に施設で行った運営事業・自主事業など) ”・施設の維持管理、施設の使用許可、使用料等の徴収業務を行った。 ・輝く子育て支援学級16回、保育園・幼稚園家庭教育学級48回、小学校家庭教育学級28回、子ども学級2回、世代間交流講座2回、親子講座2回、青年学級43回、いちい学級16回、成人・青年向け講座39回、岡谷あれこれスクール6回、市民大学ともまなび講座4回、人権教育4回”	
前年度の課題 への対応	空調については、こまめに調整をしてもらった。会議室等の椅子の引きずり音を抑えるため、椅子の足にキャップを設置し、消音に努めた。予約システムの修繕により対応を図った。	

6 施設の利用状況

*②・③はどちらかの欄に記入

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	51.3%	49.7%	51.3%	
年間開設日数（日）	348	347	347	347
1日の開設時間（時間）	13	13	13	13
年間利用可能時間（時間）	4,350	4,338	4,338	4,338
年間利用実績（時間）	2,230	2,154	2,227	
② 年間利用者数（人）	0	0	0	0
有料利用者数				
無料利用者数				
減免措置者数				
③ 年間利用件数（件）	10,260	9,912	10,042	10,200
有料利用件数	5,026	4,651	4,912	5,000
無料利用件数	495	631	681	700
減免措置件数	4,739	4,630	4,449	4,500
④ 1日あたり利用者数、件数	29.5	28.6	28.9	29.4
⑤ 施設利用状況の説明	年間利用件数は10,000件前後で推移している。学習グループ等の減免団体は高齢化等に伴い減少傾向にある。			

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	12,988,551	12,566,370	12,736,170	14,123,000
経常経費	12,713,241	12,513,870	12,736,170	14,123,000
臨時的経費	275,310	52,500	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	40,000,000	32,000,000	32,000,000	32,000,000
正規職員の人数(人)	5.00	4.00	4.00	4.00
③ 合計コスト(①+②)	52,988,551	44,566,370	44,736,170	46,123,000
前年度比		84.1%	100.4%	103.1%
財源	44,312,447	36,317,893	35,251,650	35,306,000
一般財源				
内訳	8,676,104	8,248,477	9,484,520	10,817,000
特定財源				
* 特定財源の説明	使用料、実費徴収金、複写代、受講料			
④ 施設使用料年間収入額	8,176,514	7,782,077	8,992,039	10,070,000
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	63.0%	61.9%	70.6%	71.3%
⑦ 活動一単位あたりコスト	5,138	4,491	4,455	
前年度比		87.4%	99.2%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1	
1日あたり利用者数、件数	前年度比 101.3%	
⑤ 施設使用料収入が増加した。	1	
施設使用料年間収入額	前年度比 115.5%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)	
	平成15年3月の開館以降10年以上経過し、施設全体で劣化が見られ、(研修室のテーブル、椅子。ダンス音楽室のパーテーションの故障 など) その場しのぎの対応に追われている。調理実習室は、基本的に利用者による清掃を行っているが、衛生面から定期的な全面清掃が求められる。	
改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	定期的な点検を行い、利用者に不便が生じる前に事前に予算の範囲内で修繕を実施する。調理実習室は常に清潔に利用していただくよう利用者に周知するとともに、食中毒事件の発生を防ぐため定期的な清掃の予算計上を行ってまいりたい。	
	改善開始時期	随時実施

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容			